江別ユネスコ協会会報　第４８号（2015･1･20）　事務局・江別市教育委員会生涯学習課内

米国の医療制度と健康保険

学習会でオバマケアを考える

江別ユネスコ協会の学習会の目的の一つが「国際理解」です。外国の庶民の生活事情を知ることは、相互理解のための第一歩です。当協会の第 107 回学習例会は、わたし達が良く知っているようで詳しくは知らない国アメリカの市民生活を学ぶため、ティム・プレイフェアさん（江別市教育委員会・英語指導助手）に「アメリカの医療と健康保険」というテーマで講話をして頂きました。

米国の保険制度は複雑で、65 歳以上の国民と障害者のためのメディケアという保険制度と、低所得者のためのメディケイドという制度が国営の制度です。この 2 制度に加入しない国民の大多数は、個人で民間の保険会社の保険に加入するか、勤務先や所属団体が提供する団体保険に加入します。

オバマケアとは、オバマ大統領が 2010 年から推進している医療保険制度改革法の通称です。従来、自由診療を基本とする米国では医療費が高額で、民間の医療保険に加入しても保険料が高額です。保険料の支払いが困難な低所得者など国民の 6 人に 1 人は医療保険に加入しておらず、結果として国の医療支出が増大するという弊害も生まれました。オバマケアは、こうした問題を解決するため、民間より低額な公的医療保険への加入を国民に義務づけ、同時に病気の早期治療や予防による医療支出の抑制も目的にしています。この改革で全国民に保険加入義務が課され、保険会社は既往症を理由に保険加入を拒否できなくなったことは大きな進歩だと言えます。

ティムさんはポートランド州立大の社会学科出身で、不動産鑑定士助手の経験もあり、義兄が医師で医療制度にも詳しいとお聞きしたので、このテーマで主に患者の立場から解説して頂きました。

歴代大統領が手を焼いてきた医療保険に焦点を当てた学習会で、一般市民の実状と保険会社や病院側の損得関係もあばいて頂き、アメリカの格差社会と商業主義の現実をのぞき見る思いでした。

▲複雑な保険制度を話すプレイフェアさん（左）

カレンダーの国際交換にご協力を

当協会のカレンダー国際交換活動は、1983 年 1 月に姉妹都市グレシャム（米国）へ発送したのが始まりです。最盛期の 1992 年にはスリランカ、パラグアイ、オーストリア、フィリピン、カナダ、スイス、米国に 202 本を送った記録があります。

本年度も実施しますので、日本文化の理解に役立つ、絵入りのカレンダーを寄贈してください。

アフリカに安全な食べものを

水と食と感染症を学ぶ講演会

江別ユネスコ協会では 5 月 28 日 18 時 45 分から、野幌公民館において講演会を開催しました。テーマは「アフリカに安全な食べものを」で、講師は酪農学園大・准教授の蒔田浩平さんでした。

蒔田先生は日本獣医畜産大を卒業後、埼玉県庁農林部に勤務し、在職中に青年海外協力隊員としてネパール国で活動。のち英国のエディンバラ大学で獣医疫学を専攻して獣医学博士号を取得されました。2008 年からはアフリカ・ケニアの国際家畜研究所で研究に従事されたという多彩な経歴をお持ちです。2010 年 4 月に酪農学園大に新設された獣医疫学研究室に赴任されました。

▼アフリカの食の危険性を指摘する蒔田さん

今、アフリカで食糧危機が最も深刻なのはソマリア、コンゴ共和国、中央アフリカ共和国、南スーダンなどの紛争国で、数百万人が食糧不足による栄養不良や飢餓の状態にありますが、蒔田先生は疫学研究の立場から人獣共通感染症に注目し、世界で毎年 20 億症例の下痢が発症し 150 万人の子供が死亡している主因は、飲料水と動物由来食品によると指摘して、更に新たな感染症が蔓延するだろうと推測しています。

この講演会では、アフリカの食の安全について分かり易くお話し頂き、質問に答えて頂きました。

モンゴル力士はなぜ強いのか

遊牧民の食文化を考える学習会

▲モンゴル人の体力の源泉を考える石井さん

日本の国技といわれる大相撲は、今や外国人力士の活躍に支えられています。とりわけモンゴル国は旭鷲山、朝青龍、白鳳、日馬富士、逸ノ城と人気力士を多数輩出し、日本の好角家をヤキモキさせています。なぜモンゴル人力士は強いのでしょうか。酪農学園大学の石井智美（いしい・さとみ）教授は、その有力な原因の一つにモンゴル人の食生活を挙げています。そこで当協会の第 109 回学習例会では、石井先生をお招きして「モンゴル力士が強い秘密はその食生活に～遊牧民の食のお話～」というテーマで講話をして頂きました。（11 月 12 日 18 時より、野幌公民館で開催）石井先生は北大卒業後、酪農学園大･大学院を修了し光塩学園短大･助教授を経て、現在、酪農学園大･農食環境学群にお勤めです。モンゴルの遊牧民研究では遊牧民の住宅に同居し､同じ食事を食べて、食と栄養や発酵乳の調査研究を続けておられます。

海のない内陸アジアの草原で、羊・牛・馬・山羊・ラクダなどの乳と肉を最大限に活用した食生活の永い歴史が、強靭な肉体と精神力の根源となる遺伝子を育て、世界最強のモンゴル帝国(元)を造り、現代にモンゴル力士を残す要因となったと、この学習会の出席者は納得したようでした。

屯田兵はどんな兵器を装備したか

学習会で郷土の歴史遺産を再点検

当協会は地域遺産活動の一環として、郷土の歴史に大きな影響を与えた事象について、現代史的な観点から見直しをする学習を試みています。第108 回学習会は「屯田兵の装備した兵器について～装備した小銃等と屯田兵の軍事的役割～」というテーマで北海道屯田倶楽部理事の江口憲人（えぐち・かずひと）さんに講話をして頂きました。（8 月 30 日 13 時 30 分より、野幌公民館にて）

屯田兵制度の目的の一つに「北辺防衛」がありますが、外国の侵略に対して開拓使はどのような危惧を持っていたのでしょうか。清国、英国、ドイツ、フランス等の実情を考えれば、意識すべきはロシア帝国くらいだそうです。当時ロシアは樺太・千島の領有に熱心でしたが、沿海州で北海道侵攻の大軍を編成するのはコスト的に無理があり、欧米諸国の反発を考えるとリスクが大き過ぎるようです。この時期の極東情勢を分析して明治政府は、屯田兵の任務を設定したに違いありません。

小銃に視点を当てて考えると、屯田兵が最初に装備したのは英国陸軍が 1866 年に廃止したエンフィールド銃で、1877 年にはレミントン銃に変わり、1880 年に 13 年式歩兵銃（村田銃）に、1889 年に 23 年式歩兵銃に変わります。日露戦争を戦った屯田兵は 30 年式歩兵銃を装備していた可能性が高いといえます。こうした装備小銃の変化が、その時期、その時期の屯田兵の軍事的役割を暗示しているのではないかと考えられます。

▲屯田兵の軍事的役割を推論する江口さん

江口さんは北大・大学院修士課程を修了後、永く道立高校教諭として主に世界史の科目を教えてこられました。ライフワークとも言える兵器史研究の蘊蓄の一端をお聞きして、学習会の出席者は大いに感服していました。

日本ユネスコ協会連盟の知床での全国大会に参加して

江別ユネスコ協会会長　田 村 邦 雄

「第 70 回日本ユネスコ運動全国大会 in 知床」が「知床国立公園 50 周年」を迎えた斜里町で、6 月 7 日～9 日に開催されました。全国から約 600 人の関係者が参加し、韓国連盟から 31 人、中国連盟からも 2 人の出席がありました。冒頭、日ユ連盟の松田昌士会長は「アジアの絆を大切にし、戦争を排除しよう」という主旨の記念講話を行い、環境ジャーナリストの石弘之氏（北京大学客員教授）が、世界遺産の保全が十分でない現状に対し警告を発する基調講演を行いました。

この大会は斜里町・羅臼町・知床ユネスコ協会の熱意ある招致活動によって実現した経緯もあり、知床が交通の不便な地域にある事情もあって、大会運営は北海道ユネスコ連絡協議会を中心とする運営委員会と、開催地の知床ユ協を中心とする実行委員会の 2 本エンジンで推進されたので、幕を揚げてみるまでは、全国からの出席者に満足のいく内容に高めることができるかどうか、不安が残りましたが、幸いにして「地球環境の保全を知床から考える」というテーマのパネルディスカッションに弘前大学の石川幸男教授、北大低温科学研究所の大島慶一郎教授、横浜国立大の松田裕之教授、知床博物館の山中正実館長など環境保護の第

一線で活躍している研究者がパネラーとして参加して下さったので、通常の全国大会のレベルを超えた、中身の濃い学習の場を提供することができたと思っています。私も運営委員会副委員長を委嘱されて一端の責任を感じており、時間いっぱい活発な討論が展開される光景を見て安堵しました。

また「知床は未来に何を示し、何を残せるか」と題する午来昌・元斜里町長の提言は、知床を愛する地元町民の本音を的確に提示して、聴衆に感銘を与えましたし、地域内の斜里高、清里高、標津高、羅臼高など 4 高校におけるユネスコ活動の現状報告も、今後に大きな期待を感じさせました。

この、最果ての地・知床に押し寄せているグローバルな波が、いま日本全体を洗おうとしている状況を実感できた、充実した全国大会でした。

▲交流会で午来･元斜里町長（中央）を囲んで

江別ユ協の動き MEMO

（2014 年 1 月～2015 年 1 月）

◇カレンダーの国際交換　1 月 28 日、2014 年版の絵入りカレンダー24 本をインド、韓国、米国へ。

◇国際センター「冬の集い」に参画　2 月 14 日（イオンタウン江別）市内の外国人が多数出席。

◇第 106 回学習例会　2 月 22 日 13 時 30 分（野幌公民館）テーマ：米軍資料で見る北海道空襲、講師：西田秀子氏（江別市文化財保護委員）

◇使用済み切手回収運動　約 8,000 枚を回収して JOCS（海外医療協力会）へ 4 月 9 日発送。

◇道ユ協第 1 回常任理事会　4 月 6 日(かでる 2･7)

◇北海道ユネスコ連絡協議会定期総会　4 月 20 日 15 時(すみれ H) 田村･江ユ協会長が副会長に再任。

◇江ユ協役員会　4 月 24 日 18 時（野幌公民館）

◇江別ユネスコ協会定期総会　5 月 28 日 18 時(野幌公民館）事業・予算・役員選考委員などを審議。

◇「みどりの絵」コンクールのＰＲに協力　三菱環境財団・日ユ連盟共催の児童絵画コンクールに協力、市内小学校へ作品応募を依頼 (6 月 6 日付)

◇道ユ協第 2 回常任理事会　7 月 21 日(かでる 27)

◇国際センター講演会　8 月 22 日、講師：ダッシー・ラン氏 (オーストラリア出身・元南幌町 ALT)

◇札幌ユ協コーアクションパーティ　11 月 10 日（第 40 回、京王プラザ札幌）田村会長が出席。

◇「えべつ世界市民の集い」に参画　江別市国際交流推進協議会主催。10 月 13 日 (江別コミセン) 実行委員として菅沼名誉会長、角田理事が参画。

◇国連デー記念講演会　10 月 24 日（京王プラザ H）国連協会道本部主催。講師：野口泰･外務省軍縮課長、瀬谷ルミ子・紛争予防センター理事長。

◇全道大会に５名出席　10 月 25 日（札幌市かでる 2･7）田村会長、押谷副会長、酪農大学生 3 名。

◇国際センター講演会　11 月 18 日、講師：イップ常子氏（在オーストリア）国際交流推進協主催。

◇第 3 回 ESD ユネスコスクール研修会　12 月 7 日（道教育大･札幌サテライト）田村会長が出席。

◇札幌インターナショナル・ナイト　12 月 15 日 13 時～20 時（京王プラザ）田村会長が出席。北海道青少年科学文化財団主催 (道ユ協は実行委員)

◇国際センター・市民活動センターあい・年忘れ交流会　12 月 20 日 18 時（センター交流広場）

◇道ユ協新年午餐会　1 月 24 日 11 時（札幌グランドホテル）札幌ユ協共催、田村会長が出席。

◇北海道高校ユネスコ研究大会　2015 年 1 月 31 ～2 月 1 日（豊平区・北海商科大学）会長が出席。

事務局連絡先：青少年係内☎381-1069 担当石津